

令和6年度 第2回 王寺町子ども・子育て会議 議事要旨

日時:令和6年8月20日(火)午後2時00分～午後3時45分

○案件 1 こども・若者意見聴取会について

- 2 王寺町こども・若者や子育て家庭を取り巻く現状について
- 3 王寺町こども計画骨子案について
- 4 特定教育・保育事業量の見込みについて

番号	内容
1	いずみスクエアに新しく大きな遊具ふわふわドームを作っていたが、炎天下で遊びに行けない。室内で遊べる場所を増やしてもらえたら安心して遊べる。
2	こども計画の第3章の柱の中にどれだけ書かれているかである。全く書いていなければ予算がつきにくいかもしれない。公園整備をするなどにうまく位置づけられれば、予算をつけていただけるのではないか。
3	今ある公園も含めて、設置の見直し、目的をしっかりと作った公園がこれからは必要だと考えている。室内での遊び場も当然必要だろうと思う。
4	自宅に居場所がないこどもは、どのくらいいるだろうか。 ⇒(委員)北義務教育学校ではメディアセンターや学校図書館を開放している。学童などがない後期課程のこどもたちは家にいるだろうとは思いますが、具体的な生徒数はわからない。
5	こどもたちから多くの意見をいただいた。皆さんから見て、これは、大事だということがあれば、お教え願いたい。
	フリーWi-Fiがあり、空調が整っていて、自分の好きなことができるような施設も一つかなとは思う。友だち同士の居場所や、夏休みなどで親が不在の間に遊びに行ける場所や環境があればすごくいいのかなと思う。
	ラブチームやスポーツチームの増設、スポーツに触れることを目的とした少しゆるいチームなど、もっと多様なクラブチームがあってもいい。フリーWi-Fiなら学校現場のようにフィルターをつけるなどある程度の縛りが必要。こどもたちが好き勝手できるのと、住み心地が良いのは違う。ある程度は管理された中で自由が確保できるような設備が望ましい。スポーツだけでなく文化的なクラブも良いのでは。こどもたちが1人でも2人でも繋がれるような場所が提供できると良い。ただ、指導者の問題は難しいと思う。
	後期課程の部活動を今後どうしていくかは、国も奈良県でも進め方について考えられている。地域でこどもたちが自分の好きなスポーツに打ち込めて、皆で一緒にできるようなことを含め、進めようという動きがあるのは確か。
	目的があって集まれる場所があり、そこで親しくなった大人に相談ができるような場所があれば良いのでは。居場所づくりなど、まずできることからやっていく方が良いかなと思う。

番号	内容
6	こどもの意見で「悩みを聞いてくれる場所」とある。これは学校が、そういうこどもを把握しているということはないのか。 ⇒(委員)気になるこどもには教員からアプローチをかけて話を聞くなど、少しでも早い段階で気になるこどもを見つける取り組みはしている。不登校のこどもらが地域のそういった場所や、いくつかのチャンネルがあってどこかを利用できるような、小さいものでもかまわないから増やしていくのも大事かと思う。 ⇒(委員)学校はやっていただいているが、拾えないこどもをどうするのかというときに、この計画の中でどのような形でやっていけるのか、まだピンとこない。
7	やはりこどもが小さい時は家庭が居場所になる。そういう時に幼稚園で保護者支援などを一緒にやっていくことも大事である。このあたりを委員にお聞きしたい。 ⇒(委員)幼稚園はこどもだけでなく保護者とも関わりがある。ちょっとした雑談で母親らの悩みを聞くことを大事にしている。未就園の方が来られるときには、保健センターやこども家庭センターなどと繋がっていけたらと町立幼稚園の役割として考えている。
8	こどもが自転車で行けるような場所があり、そこには安心できる大人がいて、その大人がいる中でこどもたちが好きに過ごせるような場所があると良いと思う。
9	こども家庭センターは実際どこまで機能しているのか。そして、王寺町はどこまでそういった事例があるのか知りたい。他県の地域では実際、学校の方からセンターに繋げようと思っても断られ、対応できないまま待たされる状況のところもある。学校にはスクールカウンセラーが配置されていると思うので、保護者やこどもからの相談に真摯に対応してもらえたらこどもの満足度は上がっていくのでは。こどもにとって、信頼のできる大人がいることは、ストレス緩和にもなると思う。
10	こどもがスクールカウンセラーのところに行くのはなかなか敷居が高いのでは。昔のように、近所のおばちゃんに相談するようなことが、今はない。ちょっと聞いてもらったら解決するようなことを聞いてもらえるような人がいない。 ⇒(事務局)王寺町のこども家庭センターでは相談を断ってはいないと思う。ただ、職員が少ないため全ては難しいかと。今は役割を分け、学校にお願いをしたり、ここは繋いでおきますなど分担しているのが現状。センターをどう充実させていくかも始まったばかりなので手探り。気軽に相談したり、しんどいと言える場所であってはならない。
11	北小学校跡地でそのような建て替え事業はできないか。 ⇒(委員)室内の遊び場も検討の一つとして伺っておくが、地域の理解も必要になるのが現実。小学校跡地だけでなく舟戸児童公園や浄水場跡地も相当な空間がある。ご意見を参考に若手職員グループで話し合いをしていく。

番号	内容
12	王寺町が住みやすい町だと一般的に言われているが本当だと思う。義務教育学校の授業もいろいろ時間数を変えたり、ある程度の柔軟性がある。9 年間で何ができるのかを考える。私は義務教育学校にものすごく期待している。
	もう一つ、王寺町にはどのくらいヤングケアラーがいるのか。 ⇒(事務局)アンケートでは、たとえば家族の世話があり、自分の好きなこと、やりたいことができないようなことはあるか？という聞き方をした。まわりの子より遊ぶ時間が短いと感じるから、それがすぐにヤングケアラーとして当てはまるかは難しいところ。しかし一定数そういう状況にあると回答しているこどもがいる。
13	高学年では、悩みを持っているこどもが、気軽というか何となく行けそうな雰囲気、の場所を設けることも必要なのかなと思った。小さいこどもには、やはり遊び場という概念で施設を作ってあげたら楽しんでもらえるかなと思う。そこを行政だけでやるのか、NPOであれば民間の力を借りてやるのか、そういうことを我々は考えていかねばならない。
14	自治連合会で自治会長の話を聞くと、一番の懸念はこども会活動を休止しているところが増えてきていること。自治会活動の役員の担い手も少なく自治会運営そのものが苦しくなっている。広い地域でいろいろな活動を考えていけば、また違った活動ができるかもしれない。地域自治協議会、まちづくり協議会等の名称で全国でも事例がある。高齢者や子ども会活動の助成をしている人、PTA 役員など老若男女に集まっていただいて意見を聞くワークショップもしている。
	「合計特殊出生率」の 1.18、この数字にも私はびっくりした。総合計画審議会でも、総合計画としての目標は 2.1。この見直しは、後期計画なので 5 年後に即、見直すくらいでよいのではという意見になった。この推計値はどのようなものか。 ⇒(事務局)0 歳～11 歳の将来推計は基本的には過去データを基に算出している。0 歳児については過去 5 年間の実績の平均値で算出している。過去 5 年間の出生数の平均で、1 年あたり 194 人という平均値が出ている。194 人がずっと生まれる見方で算出している。
15	基本理念の案①案②案③、どの基本理念が良いかについてご意見を伺いたい。
	案③がいいのではと思う。青少年指導委員会では、こどもたちが高校生になった時にキャンプリーダーをしたり、小学生を相手にリーダー活動をしている。自分が大きくなったときに下の子たちの面倒を見て、地域を担っていこうという活動をしている。この観点から「若者が健やかに育って安心して子育てができるまち」が一番マッチすると思う。
	案①の「幸せな状態」は、何をもって幸せな状態だと言えるのだろうか。案②の「未来を担う」もちょっと重い印象。案③が良い。 案①の最初の「すべてのこども・若者が」というフレーズがいいなと思ったので、それを、③と組み合わせて「すべてのこども・若者が健やかに育ち、安心して子育てができるまち」とするのがしっくりくる。

番号	内容
15	その意見に賛成です。
	それが良いと思う。①と③を混ぜたのが良い。
16	全ての基本理念や基本的な視点にも入っているので、基本目標と施策体系の中にも「すべての」がどこかにあっても良いかなという気はする。 ⇒(事務局)「すべてのこども・若者が健やかに育ち、安心して子育てができるまち」でよろしいでしょうか。ありがとうございます。